

# 身体の働き・機能について

## 第1回 身体、医療の基本的考え方 について

平成27年12月16日

株式会社リエイト

南波利宗

# 今回お伝えすること

- 鍼灸治療の決定版！
- この症状にはこのツボを使えば治る！！

鍼灸治療を「**どのように**」臨床に活かすか

# 治療効果が最も現れるとき

※患者さんが心から納得した時

「先生に身体を全てゆだねます」と思ったとき

=先生の

①立ち振る舞い(自身のある態度)

②説明(理論が明確)

によって決定される

※先生の納得度合いに大きく左右される

# 多くの患者さん

様々な治療院で

「筋肉が硬くなっている」

「関節の動きが悪くなっている」

という説明を受けている

①良く効く患者さん＝納得出来る

②効果が出づらい患者さん

＝納得出来ない、

「この治療院でもそうか・・・」と落胆

# 症状が出てくる要因(内的要因)

- 皮膚
- 筋肉
- 骨(骨・骨格・関節)
- 神経(感覚神経・運動神経・自律神経)
- 心ころ
- 脳

# 鍼灸治療の最大の強み



## 自律神経

- 身体の「機能」を細分化する
- ・どの「機能」が働けていないか
  - ・どの「機能」が働き過ぎているかを判断し、説明・治療に活かす

# 自己紹介

南波利宗(なんばとしむね)

略歴

2005年明治鍼灸大学鍼灸学部鍼灸学科 卒業

2008年帝京医学技術専門学校柔道整復学科  
卒業

2005年株式会社あみ入社

2009年清野鍼灸整骨院入社

2011年明治国際医療大学大学院鍼灸学研究  
科博士前期課程入学

# 主な研究歴

## 全日本鍼灸学会発表

「肩こり患者に対する鍼治療の試み(第2報)ートリガーポイントに有用性に関する比較試験ー」

「トリガーポイント鍼治療が有効であった肩こり患者の1症例ー痛み以外の不定愁訴に対する検討ー」

「精神疾患に起因した肩こりに対するトリガーポイント治療の試みーうつ病患者に対する1症例報告ー」 第56回全日本鍼灸学会学術大会



# 主な研究歴

- **世界鍼灸学会連合会学術総会**

“The Effect of Trigger Point Acupuncture Treatment for University Students with Shoulder Stiffness Randomized Controlled Trial by Beginner Therapist”

- **iSAMS2014国際鍼灸学会シンポジウム**

“The Effects of Trigger Point Acupuncture Treatment -A Systematic Review of Randomized Controlled Trials-”

# 修士論文

「トリガーポイント鍼治療の有用性に関する文献的考察 — システマティックレビューによる検討 —」

# 講習会のカリキュラム

第1回：身体、医療の基本的考えについて

第2回：身体の働き・機能に影響を与える  
日常生活について

第3回：肝・心について

第4回：脾・肺について

第5回：腎について

第6回：総括、臨床トレーニング

# 本日の流れ

- 第1回
- 身体、医療の基本的考え方について
  - ①健康とは何か
  - ②医療とは何か
  - ③「機能」について
  - ④腹診方法

# 「健康」とは??

- ・ WHO(世界保健機関)による「健康」の定義

健康とは、病気でないとか、弱っていないということではなく、**肉体的**にも、**精神的**にも、そして**社会的**にも、すべてが満たされた状態にあることをいいます

# 二元的健康観

- ・ 健康とは、病気でない状態
- ・ 健康と病気は、コインの裏表  
「健康」から突然「病気」になる



# 一元的健康観

- ・ 完全健康と死の間を一本の線上として、その間を行ったり来たりする
- ・ 「健康」と「病気」の境界は不明瞭



# 近代(西洋)医学とは

- ・ 近代医学は、身体を対象とする医学
- ・ 近代医学は、器質的病変を対象とする医学  
器質的病変
  - ・ 身体に、目に見える異常が起こった病変
  - ・ 精密検査で結果が出るもの



# 東洋医学とは

- ・ 東洋医学は、こころを対象とする医学
  - ・ 東洋医学は、機能的病変を対象とする医学
- 機能的病変
- ・ 身体に、目に見える異常が存在しない
  - ・ しかし不調を訴えるもの
  - ・ 精密検査では異常なしと診断される

# 機能について

- 身体の機能の内、ほとんどは自律神経によって統制されている
- 自律神経には、「交感神経」と「副交感神経」が存在する
- 現代人は、交感神経が高ぶっているから、副交感神経を優位にすれば健康になれる！！
- …と巷では言われていますが、

- 身体の機能はとても複雑！
- 「交感神経」と「副交感神経」の片方、もしくは両方だけにアプローチしたところで、限界がある

# 鍼灸治療の強み

身体の機能を細分化する



特定の機能を上げるように  
アプローチする

# 内臓の機能

肺：呼吸をする、空気ろ過、細胞を栄養

心臓：全身に血を巡らせる、体温調節

胃：消化

腸：吸収、排泄、発熱、免疫

膵臓：消化、血糖調節

肝臓：解毒、発熱、代謝、糖貯蔵

腎臓：老廃物をろ過、水分代謝

膀胱：排尿、体温調節

皮膚：発汗、排泄、体温調節、免疫、体内時計

# 機能の使用は有限

- ・機能は、何でもかんでも全力で使えるものではない
- ・ある機能を使うと、他のある機能は低下(休憩)する
- ・機能をどれだけ使えるかは、その人の体力レベルによる

# 鍼灸治療を行う時

① 身体の機能が低下した時

→ 機能が上がるようにアプローチ

② 身体の機能が失われた時

→ 他の残っている機能を上げることで、失った機能を補う

# 毒とは何か??

- ・ 健康に対して有害なもの

例1: 昔は自然界に存在しなかったもの

- ・ 化学物質(排気ガス、工場廃棄物、PM2.5 他多数)
- ・ 添加物(人工甘味料、着色料、他多数)
- ・ 電磁波(携帯電話、パソコン、他多数)

例2: 食べ物、ストレス



# 解毒方法とは??

- ・ 通常時の解毒

呼吸、汗、平熱、排便・排尿、  
適度な運動、月経

- ・ 強い解毒

咳、痰、鼻水、涙、目やに、出血、膿、  
熱発、下痢、嘔吐、湿疹・じんましん、  
炎症・痛み

# 症状が出るかどうかは、 身体の状態 VS 外からの影響

- ・ 例えばインフルエンザ

同じだけウイルスがいるにもかかわらず、感染する人とならない人がいる。

- ・ 例えばぎっくり腰

重いものを持ってても平気な人もいれば、軽いものを持つ時にぎっくり腰を起こす人もいる。

# 薬を使うべき時

①機能が失われた時。

例：1型糖尿病で血糖値を下げるホルモンが全く出せない時。

②機能が著しく低下した時。

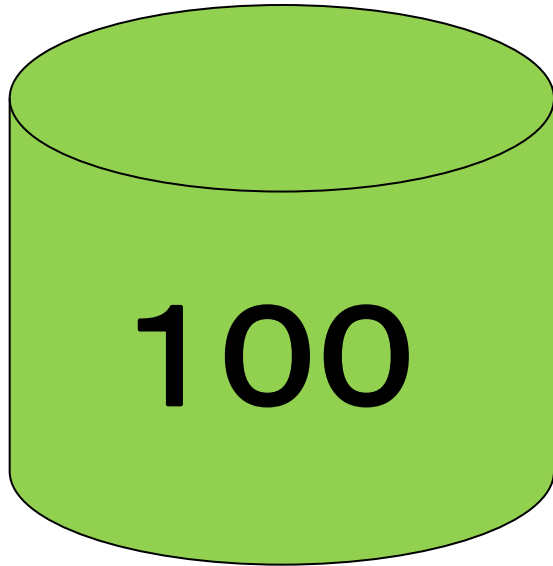
例：血圧を下げる力がなくなり、最高血圧が常に180mmHgを超えるような時。

③長期間薬に依存している時。（＝長期間自分の機能を使っていない時）

例：胃酸が出すぎて、常に胃薬を使っているような時。

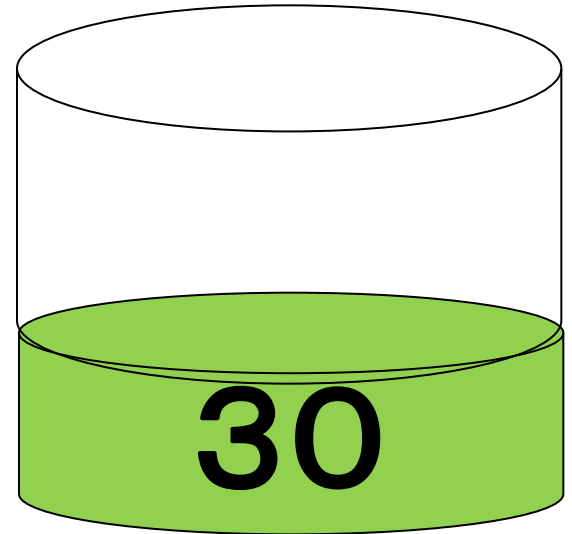
# こころの問題

- ・こころの状態によって、どれだけ「機能」  
を使えるかが決定される



最大機能

こころの  
状態に因り



使用可能機能

# こころの問題

- ・例えばインフルエンザ

100ある免疫力の内、こころの状態によって30しか使えない場合。

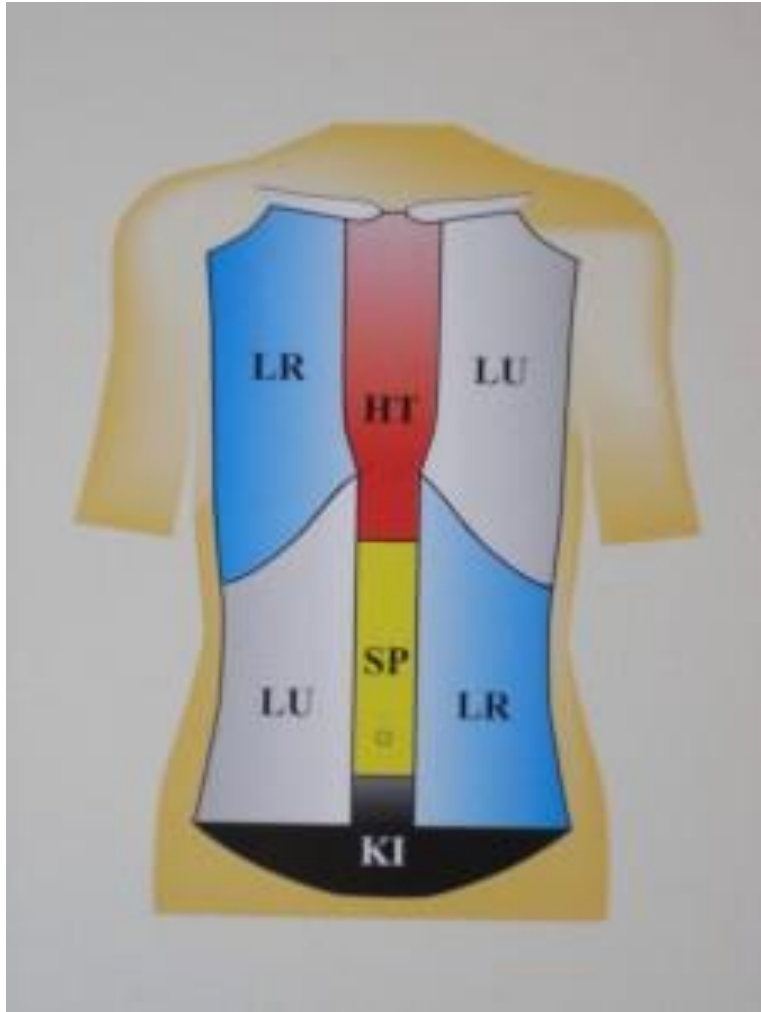
ウイルスの力が50だとしたら…

- ・例えばぎっくり腰

100ある筋力の内、こころの状態によって30しか使えない場合。

50の力が必要な物を持ち上げるとしたら…

# 腹診



難經腹診  
積聚治療の区分

LR:肝

HT:心

SP:脾

LU:肺

KI:腎

# 腹診の利点

脈診と比べて

※分かりやすい

反応が、

痛い、気持ち悪い、硬い、軟らかい、

冷たい、火照る、乾燥、湿潤、色、動悸

等

# 腹診

## 肝の領域

左右幅: 左腎経と胃経の中間線と左脾経と胆経の中間線の間

上下幅: 左季肋部下より関元の高さ

## 心の領域

左右幅: 左右の腎経と胃経の中間線の間

上下幅: 心窩部より上腕の高さ

## 脾の領域

左右幅: 左右の腎経と胃経の中間線の間

上下幅: 上腕の高さより陰交と気海の中間線まで

## 肺の領域

左右幅: 右腎経と胃経の中間線と右脾経と胆経の中間線の間

上下幅: 右季肋部下より関元の高さ

## 腎の領域

左右幅: 左右脾経と胆経の中間線の間

上下幅: 関元線、陰交—気海線より下、恥骨、鼠径部の上まで



どう臨床に活かすか

# 症例検討

Q & A

# 5種類に分けた身体の機能

肺：呼吸、皮膚機能

心臓：全身に血を巡らせる、体温調節(体温下げる)、精神作用

肝臓：解毒、発熱、代謝、糖貯蔵、筋疲労回復

脾臓：胃、膵臓(消化、血糖調節)

腎臓：老廃物をろ過、水分代謝、膀胱(排尿、体温調節)、腸(吸収、排泄、発熱、免疫)

# 推薦図書

『家庭に一冊 病気を治す100の秘法』

著者：小林三剛 難易度☆

『やまい一口メモ—東洋的な健康観のすすめ』

著者：小林詔司 難易度☆☆

『鍼術上達講座』

著者：杉山勲 難易度☆☆☆

『東洋医学講座』2巻、3巻、7巻

著者：小林三剛 難易度☆☆☆☆☆